



一瞬？ 一生？

## 現社・倫理・政経 人名の基礎知識

『 』は著書, 「 」は発言や著作の有名な言葉またはその人を特徴付けるキーワードを示す。センター試験に出るのは「どの教科書にも載っている人」か、または「ノーベル賞をもらったがまだ教科書にも載っていない人」だから、仮にこれ以外の人が出題されたらほとんどの受験生は知らない人のはず。あわてる必要なし。年代は参考のために載せているだけで、細かく覚える必要はない。ただし、「〇世紀前半」くらいは知っておくとよい。

番号	人名	年代	説明・著書
1	□ アダム＝スミス	1723-1790	『諸国民の富』(『国富論』ともいう)を著す。古典経済学の祖。「自由放任(レッセフェール)」「神の『見えざる手』」
2	□ アドルノ	1903-1969	ナチスに追われアメリカに亡命。戦後はホルクハイマーと共にフランクフルト大学の社会研究所を再建した。FR度(Fはファシズム)を考案し、ファシズムを支えた大衆の権威主義的性格を解明した。
3	□ アナクシマンドロス	B.C.610頃- B.C.547頃	古代ギリシャの自然哲学者。万物の根源はアペイロン(無限なるもの)だと説いた。
4	□ アナクシメネス	B.C.585頃- B.C.528頃	古代ギリシャの自然哲学者。万物の根源は空気(息)だと説いた。
5	□ アマルティア＝セン	1933-	インドの経済学者。所得分配の不公平や貧困・飢餓に関する研究でノーベル経済学賞をアジアで初めて受賞した。新古典派経済学を批判し、経済学の倫理的側面を重視した。
6	□ アリストテレス	B.C.384-B.C.322	『形而上学』『ニコマコス倫理学』など。「人間は社会的(ポリス的)動物である」プラトンの弟子で、プラトンが超越的なアイデアを説いたのに対し、現実を重視した。学校「リュケイオン」を開いた。
7	□ 安藤昌益	1703-1762	江戸中期の医者・思想家。封建社会と、それを支える儒学・仏教を批判し、すべての人が平等に生活する「自然世」をと考えた。『自然真営道』『統道真伝』
8	□ イエス	B.C.4頃-A.D.30頃	キリスト教の始祖。母はマリア。12人の弟子と活動したがローマ総督の命で十字架刑にかけられた。「隣人愛」「神の愛(アガペー)」
9	□ 石田梅岩	1685-1744	江戸中期の思想家。実践的倫理思想を説き町人層にひろまった。石門心学。『都鄙問答』
10	□ 一遍	1239-1289	鎌倉時代の僧。「遊行上人」「捨聖」とよばれる。『一遍上人絵伝』は一遍の生涯とその時代のくらしを描いて有名で、備前福岡の市の場面などは資料集でおなじみ。
11	□ 伊藤仁斎	1627-1705	江戸前期の儒学者。初め朱子学を学ぶが、のち古義学派の祖となる。京都堀川に「古義堂」を開いた。
12	□ ヴァイトゲンシュタイン	1889-1951	言語批判、分析哲学。言語活動はチェスのように一定の規則に従うと共に、多様な生活の文脈のなかにおこまれた活動である、としてそれを「言語ゲーム」と呼んだ。
13	□ ウィルソン	1856-1924	国際連盟を提唱したアメリカ大統領。しかし議会の反対でアメリカは連盟には参加せず。
14	□ A. ウェーバー	1868-1958	工業立地論で有名 マックス＝ウェーバーの弟
15	□ M. ウェーバー	1864-1920	権力の正当性を「伝統的支配・カリスマ的支配・合法的支配」の3つに分類、官僚制を定義。
16	□ ヴォルテール	1694-1778	百科全書派。専制政治と教会を批判。
17	□ 内村鑑三	1861-1930	第一高等学校教授時代に教育勅語に対する敬礼拒否で免職となる。日清戦争は支持したが日露戦争では非戦論をと考えた。『余は如何にして基督教徒となりしか』『二つのJ』
18	□ 梅棹忠夫	1920-2010	日本における文化人類学の第一人者。『知的生産の技術』
19	□ 栄西	1141-1215	鎌倉初期の僧。ようさいともいう。初め比叡山で天台宗を学んだ後、宋で線を学んで帰国。京都に建仁寺を建立した。中国から茶の種を持ち帰り栽培法を広めた。『興禅護国論』 臨済宗の開祖。
20	□ エピクテトス	55頃-135頃	ストア派の哲学者。もと奴隷で後に解放された。理性的な意志の力によって不動の心境(アパティア)に達すべきと説いた。
21	□ エピクロス	B.C.341頃- B.C.270頃	エピクロス学派の祖。人生の目的は精神的快楽にあるとして、心の平静(アタラクシア)を求めた。
22	□ エラスムス	1466頃-1536	オランダの人文学者。『愚神礼讃』
23	□ E. エリクソン	1902-1994	フロイトの精神分析を受け継いだアメリカの精神分析学者。両親はデンマーク人だったが離婚し母はドイツ人と結婚。アメリカに帰化した。『アイデンティティ』『モラトリアム』
24	□ 王陽明	1472-1528	陽明学の祖。心即理。致良知。知行合一
25	□ オーウェン	1771-1858	空想社会主義者。イギリスの社会主義者で、アメリカで共産主義的協同体建設を試みるが失敗。帰国後は労働運動を指導した。
26	□ 緒方貞子	1927-	国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の弁務官を務めた。犬養毅のひ孫にあたる。

クイズ	人名	年代	説明・著書
27	□ 荻生徂徠	1666-1728	江戸中期の儒学者。朱子学を経て古文辞学をとなえた。門下に太宰春台がいる。
28	□ 小此木啓吾	1930-2003	精神科医。精神分析学者。特に家族精神医学の著書が多い。『モラトリアム人間の時代』『シゾイド人間』
29	□ オッカム	1285頃-1349頃	英国のスコラ哲学者。实在論に反対して唯名論を唱え、イギリス経験論の基を築いた。
30	□ 折口信夫	1887-1953	国文学者・民俗学者・歌人。日本文学・古典芸能を民俗学の観点から研究。歌人としても著名。名前は「のぶお」ではなく「しのぶ」と読む。
31	□ R. カーソン	1907-1964	アメリカの生物学者。『沈黙の春』でDDTなど農薬による汚染を告発した。
32	□ 貝原益軒	1630-1714	江戸前期の儒学者、本草学者。『養生訓』
33	□ 荷田春満	1669-1736	江戸中期の国学者。復古神道をとなえた。読み方は「かだのあずまろ」
34	□ カッシーラー	1874-1945	ドイツの哲学者。認識論。「人間は象徴(シンボル)を操る動物である」
35	□ 神谷恵美子	1914-1979	精神科医。ハンセン病患者の治療に生涯を捧げた。『生きがいについて』
36	□ 賀茂真淵	1697-1769	国学者。荷田春満や契沖の弟子。『万葉考』 本居宣長は真淵の門下生。
37	□ ガリレイ	1564-1642	振り子の等時性や落体の法則を発見した物理学者。自作望遠鏡で天体を観測もした。コペルニクスの地動説を支持し教会から迫害された。
38	□ カルヴァン	1509-1564	フランスの進学者。キリスト教の宗教改革初期の指導者。その人が神の救済に与れるかどうかは、予め決定されているとする予定説。職業は髪から与えられたものであるとして、得られた富の蓄財を認める職業召命説。『キリスト教綱要』
39	□ ガルブレイス	1908-2006	現代資本主義に鋭い問題提起をした。『アメリカ資本主義』『不確実性の時代』
40	□ カール=ポパー	1902-1994	パラダイム概念をめぐりトマス=クーンと論争(科学の合理性・客観性を否定するものとしてクーンを批判した)
41	□ ガンディー	1869-1948	非暴力・不服従を唱えたインド独立運動の指導者で、マハトマ(偉大なる魂)と尊称されている。「サティヤグラハ(真理保持)」
42	□ カント	1724-1804	経験論と合理論を発展・統合したドイツ観念論の哲学者。批判哲学。善意志。定言命法。コペルニクスの転回。『純粋理性批判』『実践理性批判』『判断力批判』
43	□ キェルケゴール	1813-1855	デンマーク。実存主義の先駆者。尊敬してきた父の告白による衝撃(彼はこれを「大地震」とよんだ)から破滅の道に入るが、清純なレギーネ=オルセンと出会い婚約。しかし、彼女を愛するがゆえに婚約破棄する。「単独者としてただ一人神の前に立つ」「主体性こそが真実だ」
44	□ 行基	668-749	奈良時代の僧侶。民衆とともに道路や寺院を建設、当初弾圧されたがのち聖武天皇の東大寺・国分寺建立に協力、大僧正となる。
45	□ キング牧師	1929-1968	ガンディーの非暴力抵抗方式を黒人闘争に導入し、非暴力によって平等の実現を目指した。ワシントン大行進。「I Have a Dream(私は夢見ている)」演説(1963年)。
46	□ 空海	774-835	平安初期の僧。真言宗の開祖。弘法大師。庶民の教育機関である綜芸種智院を設立。書の名手で「三筆」の1人。『三教指帰』
47	□ 空也	903-972	平安時代中期の僧。南無阿弥陀仏となえ道・橋などを造り、「市の聖(いちのひじり)」と呼ばれた。こうやともいう。
48	□ T. クーン	1922-1996	アメリカの科学哲学者。パラダイム(paradigm)という語を科学史上の概念として提唱し、幅広い論争を巻き起こした。
49	□ C. クラーク	1905-1989	イギリスの経済学者。産業構造の高度化(ベティ=クラークの法則) 上智大学教授を務めたグレゴリー=クラークはこの人の息子
50	□ クレッチマー	1888-1964	ドイツの精神科医。体型と気質の関係(痩せ型は神経質、など)を指摘。『天才の心理学』
51	□ グロティウス	1583-1645	オランダの法学者。国際法の父『戦争と平和の法』(1625)。『海洋自由論』
52	□ クロムウェル	1599-1658	清教徒革命を指導し王政を倒す。のち護国卿に就任し独裁的に。死後イギリスでは王政が復活した。
53	□ ケインズ	1883-1946	イギリスの経済学者。有効需要を創り出し完全雇用実現できると説いた。『雇用・利子および貨幣の一般理論』
54	□ J.F.ケネディ	1917-1963	アメリカの第35代大統領。民主党。人種差別廃止や社会福祉充実を進めた。キューバ危機を乗り越えリンドン=ジョンソン大統領と会談、協調外交を進めた。アメリカ大統領史上で唯一のカトリックでもあった。
55	□ 源信	942-1017	平安中期の天台宗の僧。『往生要集』で地獄を描写し、念仏こそが万人にとって極楽往生のための易行であると述べた。古文に出てくる横川(よかわ)の恵心僧都とはこの人のこと。

クオリア	人名	年代	説明・著書
56	□ 孔子	B.C.551頃- B.C.479	儒学の祖 変動する社会の中であって、仁と礼による社会秩序の再生をめざした。孔子の言葉を弟子たちが伝えたものが『論語』
57	□ コーク(クック)	1552-1634	17Cイギリスの法律家。プラクトンの「王といえども神と法の下にある」という言葉を引用し法の支配を主張
58	□ コペルニクス	1473-1543	ポーランドの天文学者。地動説を主張し、近代天文学の出発点を確立した。
59	□ ゴルバチョフ	1931-	冷戦終結時のソ連指導者。ベレストロイカ、グラスノスチ。米ブッシュ大統領とマルタ会談を行い、「冷戦終結宣言」を出した。
60	□ コント	1798-1857	フランスの哲学者。理念より実証であるとして、事実の裏付けがあつてこそ科学の真実性は保証されるところと考え、社会学の体系をつくりあげた。
61	□ サイド	1935-	パレスチナ出身のアラブ系アメリカ人思想家。『オリエンタリズム』により、西洋が東洋を見る異国趣味にひそむ偏見を批判した。
62	□ 最澄	767-822	平安初期の僧。真言宗の開祖。伝教大師。比叡山で根本中堂を建立。大乘戒壇の設立を願い出て死後認められた。『顯戒論』『山家学生式』
63	□ 佐久間象山	1811-1864	江戸末期の学者。朱子学、蘭学を修め、西欧の科学技術を取り入れて国力を充実させることを主張したが、京都で攘夷派に暗殺された。勝海舟や吉田松陰は象山の門下生。
64	□ サルトル	1905-1980	フランスの哲学者。「実存は本質に先立つ」「アンガージュマン(自己拘束、社会参加)」「実存主義とは何か』『存在と無』 ボーヴォワールと契約結婚
65	□ 慈円	1155-1225	鎌倉初期の天台宗の僧。関白藤原忠通の子。九条兼実の弟。『愚管抄』
66	□ 朱子(朱熹)	1130-1200	儒教を再構築した。朱子学は江戸幕府の官学とされた。理気二元論。性即理。
67	□ シュプラング	1882-1963	ドイツの哲学者。「青年期は第二の誕生」 何に価値を置くかによって人間のタイプを経済型、審美型、権力型など6類型に分類した。
68	□ シュンペーター	1883-1950	経済学者。「経済は、イノベーション(技術革新)によって新技術・新組織といった新しいものが結合して、長期的に発展していく」と考え、「創造的破壊」を唱えた。
69	□ 親鸞	1173-1262	浄土真宗の祖。「だまされて地獄に落ちても後悔しない」決意で法然に師事した。凡夫の自覚。悪人正機。絶対他力。自然法爾。『教行信証』 弟子の唯円は『歎異抄』を著した。
70	□ スターリン	1879-1953	ソ連の政治家。反対派を追放・弾圧。1945年のヤルタ会談。戦後は東欧諸国の共産主義化を進めた。死後フルシチョフにより批判された。
71	□ スピノザ	1632-1677	オランダの哲学者。神は自然であるとする「汎神論」を主張した。『エチカ』
72	□ スпенサー	1820-1903	イギリス社会学の創始者。社会進化の過程を生物の進化の過程と同様に考えた。社会は「同質から異質へ」「軍事型から産業型へ」と進化し、産業型社会では自由競争のもとで適者生存が進む。社会主義はこの自然の法則に反する、と主張した。
73	□ セー	1767-1832	フランスの経済学者。スミスの経済学をフランスに紹介。貨幣は購買者が自分自身の生産物を販売することによって得られるのだから、結局、生産物は生産物をもって支払われると考える「セーの法則(販路説)」をとらえた。
74	□ ゼノン	B.C.490頃- B.C.430頃	古代ギリシアの哲学者。ストア派。禁欲主義の立場からアパテイア(不動心、非情念)を主張した。英語のストイック(禁欲的な)は、ストア派の生活態度に由来する。
75	□ ソクラテス	B.C.551頃- B.C.479	ソフィストと論争し、青年を惑わすとして死刑に。「無知の知」「汝自身を知れ」「問答法(産婆術)」 妻クサンチッペは悪妻の代表例として知られ、ソクラテスが問答から帰ってくると、洗濯物の水をぶっ掛けていたといわれる。
76	□ ソシュール	1857-1913	言語活動は、「話す」という発話行為(パロール)と、発話に先立って存在しそれを意味づける社会制度としての言語(ラング)の二つを含み、ラングを言語学の第一の対象とする構造主義を創始した。『一般言語学講義』
77	□ ダーウィン	1809-1882	生物は自然淘汰により適者生存する、として進化論を理論付けた。当初キリスト教から非難されたが、自由競争重視の資本主義社会で受け入れられ広まった。『種の起源』
78	□ ダイシー	1835-1922	『憲法序説』により「法の支配」を理論化したイギリスの政治学者。
79	□ タレス	B.C.624頃- B.C.546頃	古代ギリシアの哲学者。あらゆるものに対して強い好奇心と探究心を持っていた。万物の根源を探求し、皆既日食を予言し、ピラミッドの高さを走ったりした。万物の根源は水と考えた。
80	□ チャールズ1世	1600-1649	「権利請願」(1628)を無視し専制政治したイギリスの専制君主。清教徒革命で処刑された。
81	□ デイドロ	1713-1784	フランスの啓蒙思想家。「百科全書」の編集に生涯を費やした。
82	□ デカルト	1596-1650	『方法序説』「われ思う、ゆえにわれあり」「疑い得ない真理から出発し知識を見出す演繹法」「方法的懐疑」 スコラ哲学への批判 ※スウェーデンのクリスティーナ女王に招かれたが、毎朝5時に哲学の講義を求められ、北欧の寒い冬の犠牲となって肺炎でなくなった。
83	□ デモクリトス	B.C.460頃- B.C.370頃	古代ギリシアの哲学者。万物の根源はアトム(原子)であると考えた。
84	□ デューイ	1859-1952	アメリカの教育学者、哲学者。プラグマティズム。道具主義。『民主主義と教育』『学校と社会』

ラッコ	人名	年代	説明・著書
85	□ 土居健郎	1920-2009	『甘えの構造』で日本人を分析した精神科医。他者への依存ないし他者との一体化を求める欲求としての「甘え」が日本人に特徴的だと分析した。
86	□ 道元	1200-1253	鎌倉前期の禅僧、曹洞宗の開祖。越前に永平寺を開いた。『正法眼蔵』『只管打坐(しかんたざ)』
87	□ トックビル	1805-1859	フランスの政治家。外務大臣も務めた。『アメリカの民主政治』『地方自治の自由に対する関係は、小学校の学問に対する関係と同じ』
88	□ トマス・アキナス	1225頃-1274	イタリアの哲学者。キリスト教とアリストテレス哲学を総合しスコラ哲学を完成した。『神学大全』
89	□ トマス・ジェファーソン	1743-1826	米国の政治家。第3代大統領。アメリカ独立宣言を起草した。
90	□ トマス・ペイン	1737-1809	『モン・センス』を著し、植民地アメリカの人々に独立への機運を促した。
91	□ トマス・モア	1478-1535	英国の思想家。『ユートピア』 大法官に任じられたがカトリック教徒の立場からヘンリー8世の離婚に反対し、投獄・処刑された。
92	□ 中江兆民	1847-1901	「東洋のルソー」といわれた自由民権運動家。『民約訳解』『三酔人経綸問答』 恩賜的民権と恢復(回復)的民権
93	□ 中江藤樹	1608-1648	江戸初期の儒学者。日本における陽明学の祖。近江聖人と呼ばれた。
94	□ 中根千枝	1926-	『タテ社会の人間関係』で日本の社会を分析した。
95	□ 夏目漱石	1867-1916	個人主義を思索した明治の文豪。ロンドン留学中、日本文化からもイギリス文化からも疎外され、孤独と自己の存在に悩み神経症となったが、苦悩の中から「自己本位」という自己主義の境地によって立ち直り、続々と名作を生み出した。『それから』『こゝろ』『明暗』『我輩は猫である』『坊ちゃん』
96	□ ニーチェ	1844-1900	ドイツの哲学者。近代文明を批判、キリスト教の神の死を宣言。善悪を超越したニヒリズム。その体現者としての「超人」の出現を求めた。実存主義の先駆的存在。『ツァラトゥストラはかく語りき』『権力への意志』
97	□ 西田幾多郎	1870-1945	東洋思想の絶対無を根底として西洋哲学と融合させた。禅を研究し『善の研究』を著した。
98	□ 日蓮	1222-1282	鎌倉時代の僧、日蓮宗の開祖。天台宗を学んだのち法華経への信仰を説いた。辻説法で他宗を激しく攻撃し圧迫を受け、各地に流される。『立正安国論』『四箇格言』
99	□ 新渡戸稲造	1862-1933	札幌農学校出身の教育者。国際連盟事務次長を務め、太平洋問題調査会理事長として国際理解と世界平和のために尽くした。『武士道』
100	□ 二宮尊徳	1787-1856	江戸後期の思想家。藩や農村の復興に尽力し、その思想は報徳社運動として受け継がれた。
101	□ ニュートン	1642-1727	イギリスの物理学者・天文学者。万有引力の法則、運動の法則を見出した。『プリンキピア』
102	□ ハーバース	1929-	ドイツの哲学者。フランクフルト学派第二世代に位置する。公共性やコミュニケーション論の第一人者。ホルクハイマーからは「思想が過激だ」として疎んじられた。
103	□ ハイデッガー	1889-1976	ドイツの哲学者。フッサールの現象学を発展させ実存哲学を形成した。「現存在(ダーザイン)」「ひと(ダス=マン)」「存在と時間』
104	□ ハヴィガースト	1900-1991	「人間の行動は学習によって習得されるものであり、各発達段階に応じて社会から期待され、要請される課題がある」と考え、それを発達課題とよんだ。発達課題は、身体的成熟・社会の文化的圧力、個人的動機や価値を要因として生ずるものであるとし、青年期の発達課題として10項目を挙げた。
105	□ パスカル	1623-1662	フランスの思想家。モラリスト。『パンセ』『人間は考える葦である』『繊細の精神』『神への服従』
106	□ ハチソン	1694-1746	イギリスの哲学者。人間の心伊は自然で普遍的な道徳感覚があると主張し、また、善の基準は最大多数の最大幸福にあると説いた。
107	□ 林羅山	1583-1657	江戸初期の儒学者。藤原惺窩に朱子学を学び、家康から4代家綱までの将軍に使い、朱子学を江戸幕府の官学とする基礎を築いた。
108	□ ハンナ=アレント	1906-1975	ナチスやスターリンの全体主義と、それを生み出した現代社会の病理を究明。古代ギリシャのポリス的な公共空間に注目した。ハイデッガーは師であり、一時は恋人でもあった(ただしそのときハイデッガーには妻子がいた)が、ハイデッガーはナチスに協力し、ユダヤ人であるアレントはアメリカに亡命した。
109	□ ピアジェ	1896-1980	スイスの心理学者。幼児の認知心理に関心。自己中心性、アニミズム。『児童の言語と思考』
110	□ ピコ・デラ・ミランダ	1463-1494	イタリアの人文学者。中世神学と新プラトン主義との融合を図った。『人間の尊厳について』
111	□ ビスマルク	1815-1898	19Cプロイセンの宰相。保護貿易政策をとり社会主義運動を弾圧する一方、社会政策を進めた。『鉄血宰相』『あめとむちの政策』
112	□ ピタゴラス	B.C.570頃- B.C.496頃	古代ギリシアの哲学者・数学者。万物は数の関係によって秩序付けられると考えた。靈魂の不滅や輪廻を信じた。
113	□ ヒューム	1711-1776	イギリス経験論。科学的知識の基礎をなす因果律をも疑う懐疑論。『人性論』

クオリア	人名	年代	説明・著書
114	□ 平田篤胤	1776-1843	江戸後期の国学者。本居宣長の流れをくみ、復古神道。幕末の尊皇攘夷運動に影響を与えた。
115	□ フィヒテ	1762-1814	ドイツの哲学者。カント哲学から出発し「実践理性の優位」というカントの観点を徹底した。初代ベルリン大学総長となった。ナポレオン占領下のベルリンでの講演「ドイツ国民に告ぐ」は有名。
116	□ フィルマー	1590-1653	イギリスの政治思想家。ロックの『市民政府二論』の第一部はフィルマーの王権神授説を痛烈に批判したもの
117	□ フーコー	1819-1868	フランスの物理学者。光の速度の測定を行い、地球の回転を証明するフーコーの振り子やジャイロスコープを発明した。
118	□ 福沢諭吉	1834-1901	幕末から明治の啓蒙思想家。福澤諭吉に蘭字を学ぶ。幕府使節に随行して欧米を視察したが、維新後は新政府の招きには応じず教育と啓蒙活動に専念。明六社を設立。次第に自由民権運動と距離を置き、脱亜論へ傾いた。『学問のすゝめ』『西洋事情』『文明論之概略』『福翁自伝』『藩閥制度は親の敵』
119	□ 藤原惺窩	1561-1619	安土桃山・江戸初期の儒学者。僧となるが後に還俗(げんぞく)し、朱子学を修める。林羅山は惺窩の門人。
120	□ フッサール	1859-1938	ドイツの哲学者。現象学の創始者。ハイデッガー、サルトルらに強い影響を与えた。『論理学研究』
121	□ ブッダ	B.C.463?- B.C.383?	ゴータマシッダルタ。仏教の始祖。釈尊。「四苦八苦」「中道」「八正道」「慈悲」「四門出遊」「四諦」「縁起」「初転法輪」
122	□ ブライス	1838-1922	イギリスの政治家。『近代民主政治』『地方自治は民主主義の学校である』
123	□ ブラクトン	?-1268	中世イギリスの法学者。『イングランドの法と慣習について』『国王といえども神と法の下にある』(この言葉は後に1701にコークが援用し法の支配を求めた)
124	□ プラトン	B.C.427-B.C.347	古代ギリシアの哲学者。ソクラテスの弟子。「アカデメイア」を創設。現象界とイデア界、靈魂と肉体など二元論的認識に立ち、ヨーロッパ哲学に大きな影響を残した。『ソクラテスの弁明』『饗宴』
125	□ フランクフル	1905-1997	オーストリアの精神科医。ナチスの強制収容所での体験と実存主義の影響をもとに実存分析的精神療法を創始した。『夜と霧』で知られる。
126	□ フリードマン	1912-2006	ケインズ流の財政政策を批判。通貨供給量と利率で経済が決定されるとするマネタリズムの経済学者
127	□ フレーベル	1782-1852	ドイツの教育者。世界最初の幼稚園を設立。幼児の創造性を育てるための教育玩具を創作し、「恩物」と名づけた。
128	□ A. フロイト	1895-1982	S.フロイトの娘。児童精神分析の創始者。エリクソンはA.フロイトの弟子。
129	□ S. フロイト	1856-1939	オーストリアの精神科医。神経症の治療に自由連想法を用い、無意識の構造を研究して、精神分析を確立。一時ユングと親交あったが無意識の捉え方の相違から訣別。『夢判断』『精神分析入門』
130	□ プロタゴラス	B.C.490頃- B.C.420頃	古代ギリシアの代表的ソフィスト。人間は万物の尺度と説いた。
131	□ E. フロム	1900-1980	フロイトの流れをくむ精神分析学者。自由な個人が孤独と無力感から権威主義やナチス支持に向かうと分析し、「権威主義的性格」とよんだ。抑圧や強制からの解放という消極的な自由にとどまらず、主体的に自己の行為を選択する積極的な自由の重要性を説いた。『自由からの逃走』
132	□ ヘーゲル	1770-1831	ドイツの哲学者。対立を止揚(アウフヘーベン)しながら世界が運動・変化する弁証法的発展をとらえた。『精神現象学』『法の哲学』
133	□ F. ベーコン	1561-1626	イギリス経験論の祖。経験と実権を重視する帰納法を主張。真理への接近を妨げる偏見として4つのイドラ(偶像)を挙げる。『ノヴム・オルガヌム』『知は力なり』 ※にわたりの体に雪を詰める冷凍実験がもとで肺炎にかかり亡くなった。
134	□ ヘシオドス	B.C.8世紀頃	ホメロスと並ぶ抒情詩人。『神統記』『仕事と日々』
135	□ ペスタロッチ	1746-1827	スイスの教育者。ルソーの影響を受け、孤児教育や児童教育に一生を捧げた。人間の諸能力の調和的發展を教育の目的とする理念や実践は、西欧近代の教育界に大きな影響を与えた。『隠者の夕暮』
136	□ W. ペティ	1623-1687	イギリスの経済学者。農業より商業がもうかることを述べた。後の時代のコーリン=クラークの名と合わせた「ペティ=クラークの法則」で知られる。
137	□ ペトラルカ	1304-1374	イタリアの人文主義者でありルネサンス期の代表的詩人。『カンツォニエーレ』
138	□ L. ベネディクト	1887-1948	アメリカの文化人類学者。文化とパーソナリティ研究で知られる。第二次世界大戦中に日本人を分析した『菊と刀』で「欧米は罪の文化、日本は恥の文化」と分析した。
139	□ ベバリッジ	1879-1963	イギリスの経済学者。全国民を対象としたイギリスの福祉政策「ゆりかごから墓場まで」のベバリッジ報告(1942)で知られる
140	□ D. ベル	1919-	アメリカの社会学者。『イデオロギーの終焉(終焉)』『脱工業社会』
141	□ ベルクソン	1859-1941	フランスの哲学者。知性の解放と直感の復権「生の哲学」『創造的進化』(小林秀雄にベルクソン論の著作がある)
142	□ ベルンシュタイン	1850-1932	ドイツの社会民主党右派の指導者。革命を否定し議会政治によって社会主義の実現を目指す修正資本主義。

クオット	人名	年代	説明・著書
143	□ ベンサム	1748-1832	イギリスの哲学者。功利主義の創始者。快楽が7つの基準で計量可能と主張して量的快楽主義を唱えた。『道徳および立法の諸原理序説』(最大多数の最大幸福)
144	□ 法然	1133-1212	平安末期の僧。比叡山に学び浄土宗を開いた。『選択(せんちゃく)本願念仏集』『専修念仏』『末法思想』
145	□ ボーヴォワール	1908-1986	フランスの小説家・批評家、実存主義者。サルトルと契約結婚『第二の性』『人は女に生まれない。女になるのだ』
146	□ ボーダン	1530-1596	フランスの政治学者。国家の絶対的・永続的権力としての主権という概念を考察。『国家論』
147	□ G. S. ホール	1844-1924	アメリカの心理学者。ブント、W.ジェームズに影響を受け、アメリカの心理学発展の基礎をつかった。「青年期は疾風怒濤の時代」
148	□ 墨子	B.C.5世紀後半- B.C.4世紀前半	中国の戦国時代の思想家。儒家のいう「仁」は差別愛だとし、普遍的・無差別的博愛や反戦・平和を説いた。
149	□ ボシュエ	1627-1704	フランスの神学者。王権神授説を説いた。ルイ14世の王子の家庭教師も務めた。
150	□ T. ホブズ	1588-1679	イギリスの社会契約説初期の思想家。ピューリタン革命でフランスに亡命中に『リパイヤサン』(1651)を完成。自然状態は、万人対万人の闘争という恐怖の状態。
151	□ ホメロス	B.C.8世紀頃	ポリス(都市国家)が成立した時代のギリシャの詩人。英雄叙事詩『イリアス』『オデッセイア』が吟唱された。
152	□ ホリングワース	1886-1939	「心理的離乳」の考え方を提唱した。これは、青年期になり、それまでの両親への依存から離脱し、一人前の人間としての自我を確立しようとする心の動きのことで、第2反抗期とも言われ、親との葛藤・親への反抗といった強い分離不安を伴い精神的に不安定になりやすい。
153	□ ホルクハイマー	1895-1973	ドイツの哲学者。フランクフルト学派。産業化の進展とともに理性は与えられた目的を効率的に実現する手段のみを追求する「道具的理性」と化し、いかなる目的にも奉仕するようになった、と指摘。理性の道具化は理性そのものの崩壊であるとして、「批判的理性」の復権を唱えた。
154	□ マキャヴェリ	1469-1527	ルネサンス期のイタリア・フィレンツェの外交官。『君主論』(1513)、『戦術論』 目的のためには手段を選ばない権謀術数主義は「マキャヴェリズム」とよばれる。
155	□ マザー・テレサ	1910-1997	マケドニアで生まれ、インドでカトリック修道女として神の愛を説きながら病人や孤児救済の奉仕活動、1979年ノーベル平和賞受賞
156	□ マズロー	1908-1970	アメリカの心理学者。『人間性の心理学』 精神分析学や行動主義心理学を批判、欲求を5段階に分類した欲求階層説(最高次は自己実現欲求)
157	□ マッカーサー	1880-1964	アメリカ陸軍元帥、GHQの最高司令官として占領期の日本に強い影響。朝鮮戦争時に国連軍最高司令官となるが中国との全面戦争を主張しトルーマン大統領に解任された。
158	□ マルクーゼ	1898-1979	ドイツからアメリカに亡命したフランクフルト学派の哲学者。高度産業社会の中で管理された人間疎外を批判した。
159	□ K. マルクス	1818-1883	ドイツ生まれ、のちロンドンに亡命し友人エンゲルスの援助受け研究。『共産党宣言』『資本論』
160	□ マルサス	1766-1834	イギリスの経済学者。『経済学原理』で地主擁護の立場をとり、穀物法を批判するリカードと対立。『人口論』(食料は等差級数で増えるが人口は等比級数で増えるから食料不足になる)
161	□ M. ミード	1901-1978	アメリカの文化人類学者。南太平洋サモアなどで人格形成と文化との関連を研究し、男女の役割規定が文化によってなされることを示した。文化相対主義の立場をとる。
162	□ 三島由紀夫	1925-1970	小説家。本名は平岡公威。「楯の会」を結成し自衛隊駐屯地で決起を呼びかけて割腹自殺した。『金閣寺』『潮騒』『仮面の告白』
163	□ J. S. ミル	1806-1873	イギリスの哲学者。功利心と同等に利他心を満足させる精神的快楽を導き、真的功利主義を唱えた。「善意」から少数意見を排除する「多数者の横暴」を指摘し、自由に対する適法な規制は、他者への危害の防止に限られると主張した。女性に参政権を与えることを初めて提案した。『自由論』『経済学原理』
164	□ ムハンマド	570頃-632	イスラム教の始祖。アッラーの啓示を受け伝道。偶像を厳しく否定したため迫害を受け、622年にメディナにうつった。マホメット。
165	□ メルロ＝ポンティ	1908-1961	フランスの哲学者。人間を、「世界を「みる」のではなく、世界に「住まう」主体ととらえて、人間の身体性に注目。サルトルとともに政治的にも積極的に発言した。
166	□ 孟子	B.C.372-B.C.289	中国の戦国時代の思想家。王道政治、性善説、易姓革命説を唱えた。
167	□ 本居宣長	1730-1801	江戸中期の国学者。賀茂真淵の門下。『古事記伝』『玉勝間』『源氏物語玉の小櫛』
168	□ 森鷗外	1862-1922	明治時代の軍医としてエリートの道を歩むが、留学などの西欧体験によって、近代的自我に目覚めていく人間を、文学を通じて表現した。『舞姫』『阿部一族』『山椒大夫』『高瀬舟』
169	□ モンテーニュ	1533-1592	フランス・ルネサンス期の思想家。モラリストの先駆。『随想録』
170	□ モンテスキュー	1689-1755	フランスの啓蒙思想家。三権分立論はアメリカの政体に影響を与えた。『法の精神』(1748)
171	□ ヤスパース	1883-1969	ドイツの哲学者、精神科医。ハイデルベルク大学の哲学教授となったが、妻がユダヤ人であったため迫害され、教授の職を追われた。有神論(キリスト教的)実存主義 「限界状況」

クエスチョン	人名	年代	説明・著書
172	□ 柳宗悦	1889-1961	日本が植民地支配していた時代に、朝鮮(李朝)の民衆の日用雑器の美に着目し、日本の朝鮮政策を批判する文章を発表した。「民藝」という言葉を生み出し、「民藝運動の父」と呼ばれる。名前は「やなぎむねよし」と読む。
173	□ 柳田国男	1875-1962	日本の民俗学の創始者。各地を旅して民俗や伝承を調査。日本人と稲作のルーツを探る『海上の道』『遠野物語』
174	□ 山鹿素行	1622-1685	江戸前期の儒学者。官学の朱子学を批判、古学を提唱した。
175	□ 山崎闇斎	1618-1682	江戸前期の神道家・儒学者。別号は「垂加(しでます)」。もと禅僧だったが朱子学を学んで還俗。のち神儒一致説を唱え垂加神道(すいかしんとう)を興した。
176	□ 山本常朝	1659-1719	江戸初期の佐賀藩士。藩士の教養書であった『葉隠』の口述者。
177	□ 唯円	?-1288?	鎌倉中期の僧。親鸞の弟子。親鸞の「悪人正機」を記した『歎異抄』の著者。
178	□ C. G. ユング	1875-1961	スイスの精神科医。フロイトに師事するも、リビドーへの意見の相違からのちに袂を分かち。分析的心理学を創設。人間の性格を「内向型」「外向型」に分類。集合的無意識や元型の存在を主張。
179	□ 与謝野晶子	1878-1942	歌人。「母体の国家保護」をめぐる問題では平塚らいてうと対立し、子どもは一人の人格体としてとらえるべきだと主張。日露戦争従軍中の弟を思う詩「君死にたまふことなかれ」(1904)は、論争を巻き起こして反響をよんだ。『みだれ髪』『新訳源氏物語』
180	□ 吉田松陰	1830-1859	幕末の思想家・尊王論者。長州藩。ペリーの船で密航を企てるが失敗し投獄。釈に松下村塾を開き高杉晋作・伊藤博文らを育てた。安政の大獄で刑死。
181	□ ラッサール	1825-1864	ドイツの社会主義者。国家の援助のもとでの生産者協同組合の設立と普通選挙権の獲得を主張(マルクスはこれを厳しく批判した)。アダム=スミス型の自由放任国家を「夜警国家」と批判した。
182	□ ラッセル	1872-1970	数学者であり、分析哲学の創始者。1954年のビキニ水爆実験に際し、核兵器禁止を世界に訴える「ラッセル・アインシュタイン宣言」を出した。
183	□ ラファイエット	1757-1834	フランスの軍人。アメリカ独立革命で義勇軍に参加。のちフランス人権宣言(人および市民の権利宣言)を起草した。
184	□ リースマン	1909-2002	アメリカの社会学者。「伝統指向型」「内部指向型」「他人指向型」という三つの人間類型を設定し第二次世界大戦後の受動化したアメリカ中間層の社会的性格を「他人指向型」とした。『孤独な群衆』(1950)
185	□ リカード	1772-1823	イギリスの経済学者。比較生産費説、労働価値説、自由貿易論。『経済学および課税の原理』
186	□ F. リスト	1789-1846	ドイツの経済学者。古典経済学(アダム=スミスやセー)を批判、後進国が発展するには保護貿易が必要と主張。ドイツ関税同盟。『経済学の国民的体系』
187	□ リンカン	1809-1865	南北戦争当時のアメリカ大統領(共和党)。南北戦争で北軍を指導して勝利。奴隷解放宣言(1863)、ゲティスバーグ演説「人民の人民による人民のための政治」
188	□ ルソー	1712-1778	フランスの思想家。子どもと大人の間には本質的な差異があることを強調し「子どもの発見者」と言われる。「第二の誕生」社会秩序を乱しキリスト教の教えを破壊するとして発禁処分や逮捕状が出される。フランス革命に大きな影響を与えた。『社会契約論』(1762)、『エミール』『人間不平等起源論』
189	□ ルター	1483-1546	ドイツの宗教改革者。教皇庁による贖宥状(免罪符)発行を批判。ドイツ語聖書を刊行。万人司祭思想。
190	□ レヴィ・ストロース	1908-2009	フランスの文化人類学者、構造主義者。親族構造の研究。未開人の動植物の分類を通じて近代科学文明以前の人間の思考をとらえようとしたこと、およびアメリカ先住民の神話の研究で知られる。『悲しき熱帯』
191	□ K. レヴィン	1890-1947	ドイツの心理学者。ゲシュタルト心理学。グループダイナミクス研究。マージナル・マン(周辺人、境界人)
192	□ 老子		中国の春秋戦国時代の楚の指導者。儒教の人為的な道徳・学問を否定し、無為自然の道を説いた。存在自体を疑問視する見方もある。
193	□ ローレンス	1921-2002	功利主義を批判し、妥当で適切な分配の仕方を導く社会的取り決めが社会正義の諸原理になるとした。『正義論』
194	□ J. ロック	1632-1704	イギリス経験論を代表する哲学者。名誉革命を理論的に擁護し、アメリカ独立革命やフランス革命に大きな影響を及ぼした。生得観念を否定し、知識は経験の産物であるというタブラ=ラサ(白紙)説。抵抗権、革命権。『市民政府二論』=『市民政治二論』=『統治論』(1690)
195	□ ロマン=ロラン	1866-1944	戦間的ヒューマンイズム。フランス生まれだが、第一次世界大戦が始まると「絶対平和主義」を唱えて中立国スイスに亡命。「思想は行動の尺度で測られる」とし、ファシズムに対して、あらゆる力と手段を結集して戦うことを訴えた。
196	□ 和辻哲郎	1889-1960	ニーチェやキルケゴールの研究から出発、中国・インド・西洋の思想・文化史に業績を上げた。人と人との関係を重視し、間柄を基礎とする倫理学の体系をつくりあげた。『風土』『倫理学』『古寺巡礼』